

令和7年9月

定例教育委員会会議録

十日町市教育委員会

令和7年9月定例教育委員会会議録

1 開催日時、会場

令和7年9月26日（金） 10時35分～12時20分
川西庁舎 4階 第1研修室

2 出席

渡辺正範教育長、浅田公子委員、廣田公男委員、川崎正男委員、小堺沙織委員

3 説明のため出席した者

教育文化部長（滝沢直子）、教育文化部副参事（鈴木政広）、教育総務課長（玉村浩之）、
学校教育課長（渡邊正文）、指導管理主事（長谷川成生）、生涯学習課長（樋口具範）、
スポーツ振興課長（数藤貴光）、博物館参事（村山歩）

4 会議の内容

（1）会議録署名委員の指名

署名委員：浅田委員、廣田委員

（2）報告事項

① 共催・後援等報告

渡辺教育長

- ・事務局の説明を求めた。

各担当課長

- ・資料に基づき説明

② 報告第1号 “第2回十日町” みんなの学校” プロジェクトに向けた配布資料について

渡辺教育長

- ・事務局の説明を求めた。

鈴木教育文化部副参事

- ・資料に基づき説明

廣田委員

- ・雪里留学の関係で、建物が整備された際、視察に行った。当時、3人ぐらい入居が決まっていたが、今は1人で寂しい状況である。

鈴木教育文化部副参事

- ・キョロロの取組に興味がある子がいたが、今はスキーがやりたくて来ている子だけである。あとは、アパートに入って、家族で来ている子もいる。

廣田委員

- ・別紙27ページ⑨に教育移住という言葉がある。全国的な流れとなると、現在策定中の総合計画の中にも反映されるのか。

鈴木教育文化部副参事

- ・例えば、オルタナティブ教育をしているなど、教育に特化してそこに移住してくる例というのは本当にまれだと思う。公立とは少し離れたところの教育である。それを望んで来るというのは、本当に教育移住だと思う。当市が今やろうとしていることとはずれている。このようなことも考えてほしいということだが、私立や学校法人を立ち上げて進める話になるので、無理な話である。理解していただく必要があるので、話をしていかなければならない。

渡辺教育長

- ・全国的なというのは、全国ですごく盛んになっているという意味ではなく、意見をした本人がそのような認識をしているということか。

鈴木教育文化部副参事

- ・そういうことである。

浅田委員

- ・先進的な学校例のリストが、QRコードで貼られていて、とても参考になった。皆さんの感想がすごく前向きで、良い会になったと思った。

鈴木教育文化部副参事

- ・出席者は若い人がほとんどなので、QRコードをつけさせてもらった。皆さんに見ていただけるような形とした。

(以上の質疑の後了承した)

③ 報告第2号 令和7年度標準学力検査（NRT）の結果について

④ 報告第3号 令和7年度全国学力学習状況調査の結果について

渡辺教育長

- ・事務局の説明を求めた。

渡邊学校教育課長

- ・資料に基づき説明

廣田委員

- ・アンダーアチーバーのことだが、勉強すれば90点、100点取れるのに70点、50点ぐらいしか取れていない場合と、40点ぐらい取れるのに0点だった場合、両方アンダーアチーバーか。

渡邊学校教育課長

- ・そういうことになる。

川崎委員

- ・それぞれ数値が上昇したところがあるわけだが、上昇した要因を分析して、共有、継続することを大切にしてほしい。6ページの黄色の部分、小中ともに数値が上昇した要因は、居心地のよい学級づくりが関連しているということだった。学校にも上昇した要因について聞いてみて、どのように考えられるか、分析、共有していただきたい。2点目、21ページの全国学力・学習状況調査について、上の参考資料2、「小学校、全国学力状況調査の正答率の経年変化とNRT偏差値」とあるが、その中の算数の正答率、十日町市の令

和5年が全国も新潟県も上回っている。これと関連した資料が、11ページ上の「5、UA・BA・OAの割合について」で、令和5年の全国学力・学習状況調査の算数で全国を上回っている子どもたちは、小学校6年生のときにはアンダーアチーバーの数値は9%であり、一番低い状態であった。ここから言えることはどういうことか。アンダーアチーバーが低いと全体の正答率が上がってくるということが言えるのではないと思う。3点目、10ページの下グラフ、「5、UA・BA・OAの割合について、同一集団のアンダーアチーバー等の経年変化」で、現3年生は青のグラフで、下がっている。現4年生は、緑のグラフで、3年から4年のときに下がっている。下がっているということは、アンダーアチーバーの子どもが少なくなってきたということであるが、現4年生が14%で、全国平均の16%よりも下回っている。なぜこのように下がってきたのか非常に興味がある。おそらく先生によるところが大きいと思う。そのときの担任が誰になるかによって、かなり変わってくると想像できる。担任が日々どのように授業をするかということが非常に大きいと思う。担任の先生はじめ、学校がこのようなデータを自分事として捉えて、どのように改善していくのか、そのような動きになるように市教委としては後押しをすることが大切だと思った。4点目、15ページの「全国学力・学習状況調査の結果について」の一番下のグラフ、左が小学校、右が中学校で、正答率の市と県と国の比較がある。中学校の数学が、かなり低い。この要因についてどう考えるか。今後、どうしていくか。

渡邊学校教育課長

- ・各校の校長のところに、全国学力・学習状況調査の結果を受けて、分析したシートを提出するという取組がされている。全国学力・学習状況調査の結果を受けて、各校で対策に取り組んでいる。研究主任が集まり、各校の取組について情報共有をしている。当市は若手職員が大変多いので、サポートしながら取り組みたいと考えている。

川崎委員

- ・22ページに、理科の正答率があるが、現場では、学級担任よりも理科専科の人が教えているという割合が多少高い状況である。つまりベテランである。ベテランの方が教えると小学校の理科の正答率は、このように全国と県とあまり大きく開かない。このようなことを踏まえて、新しい人事異動方針の下では、教員確保困難地域と言われている十日町市をはじめとする複数の市町村に、どちらかというベテランの先生方が来やすいような制度に少し変わっていくよう期待している。

渡辺教育長

- ・川崎委員からの的確なご指摘をいただいた。しっかり分析して生かしていきたい。学級がしっかりと運営できる状態になって初めて授業ができる、そこをまずつくろうということで令和4年度から集中的に取り組んできて、少しずつだが、形になってきているとい実感はある。それをしっかり定着をさせていくという段階である。あわせて、下学年の子どもたちに対しての学習支援が非常に大事だということで、今年度から学習支援員、幼保小連携の指導主事も配置して、日替わりで全体を回っている。来年度以降、形が少しずつ出てくると思う。人事異動方針は大幅な変更である。まだ制度が始まったばかりであり、これからの運用となる。運用が始まり、多分数年経過しないとその効果が出てこないと思うが、徐々に教育困難地域にも中堅、ベテランの職員が配置をされることを今は期待している。あわせて、教員確保困難地域、いわゆるこの地域で言う魚沼枠で採用された職員については、外に出なくてもよいという制度に変えるようずっと要望し続けてきて、ようやく昨年度からその制度が認められた。引き続き、動きがあったら報告したいと思う。

廣田委員

- ・19ページの下、小学生の家庭学習について、令和3年度の2時間以上がすごく高い。3時間以上も高いが、このときどういう取組をしたのか。

渡辺教育長

- ・コロナの影響である。

廣田委員

- ・中学生も含めて、新潟県全体が家庭学習の時間が少ないと思う。十日町市が、全国平均よりかなり低いというのは由々しき問題だと思う。子どもが家庭学習に取り組む、何か良い方法はないかと思っている。

渡邊学校教育課長

- ・今の点について、研究主任の集まりがあり、小学生の家庭学習の工夫など資料を提示して情報交換した。家庭学習の量も大事だが、質も大事にしながら取り組んでいきたいと考える。

渡辺教育長

- ・補足だが、これもずっと十日町市としての大きな課題である。学力が伸びない一つの要因が家庭学習の定着率の低さ、時間の短さというのがはっきり分かっている。そこをどうするかという取組を今行っているわけだが、基本はまず学校が学習できる環境にしていこうということ。そして、家庭学習もしっかり取り組まなければならないということで、いろいろな意見、アイデア等あったら出してほしい。来年度以降、一番大きなポイントになる。

廣田委員

- ・中学生ぐらいになるとスマホを持っている子が多くなると思うが、東北大学でスマホが小中学生の成績にどのように影響するかという研究をしている先生がいる。全然家庭で勉強しない子どもを対象に、スマホを見ているか見ていないかで成績を調査したところ、家でスマホを見ていると成績が下がり、スマホ見ない子は成績が下がらない傾向があるという結果だった。ということはどういうことかということ、学校で勉強したことを家でスマホを見ることによって忘れてしまうということである。いくら学校で真面目に勉強していても、家でスマホを見ていれば成績が下がる。逆に家でスマホを見なければ学校の勉強が身についていき、ある程度成績が取れるということ。勉強が身につくためにも、今後の検討課題かと思う。

渡邊学校教育課長

- ・当市は、アイパッドを持ち帰って、デジタルドリルで勉強することもある。学校で勉強したことがゼロになってしまうということは由々しき問題であり、少し調べてみたいと思う。

浅田委員

- ・SNSなどスマホで見ていると、たくさんの情報により、脳が疲れてしまうということを知ったことがある。先程、教育長から低学年の子どもに手厚くという話があったが、先生はすごく忙しいと思う。小学校の読み聞かせに行っているが、その際に先生の状況を見て感じた。いくらすばらしい腕を持っている先生でも、忙しすぎたらやはり対応し切れないのではないかと感じた。それは、先生にとっても子どもにとっても残念なことだと思った。今教員不足が言われているが、もし資格がない人でも補助に入れるのであれば、そういう制度をつくってほしいと思った。

渡邊学校教育課長

- ・下学年の学習支援員や教育支援員の募集をしている。まだ枠があるので、知り合い等に勧めてほしい。

渡辺教育長

・補足だが、下学年の学習支援員というのは勉強を見てもよいという人で、教員免許が必要である。教育支援員は、資格がなくてよい。そういう人たちを、今五十何人雇用している。まだ募集しているので、意欲のある方がいたら、皆さんからもぜひ推薦したり、情報提供したりしてほしい。需要はあるが、達していないという状況である。どこの業界でも人材不足と言われているが、教育現場も同じである。それから、先ほど廣田委員からの話だが、家庭学習をどうするかというのは本当に重要であり、学校だけが、先生だけが、教育委員会だけが旗振りしても、なかなか簡単にいくものではないので、社会全体で支えていく必要があると思う。その流れをどうつくっていくか、我々が主体的にやらなければならないと思う。

川崎委員

・18ページの上に、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」という問いの回答の推移がある。これ見ると、令和5年から肯定的評価がすごく上がってきたが、どのような理由か。

渡辺学校教育課長

・1つに大地の芸術祭がある。中里中学校では、ツールド妻有の運営に携わったり、松代中学校では各地域に散らばっている作品等の清掃活動をしたり、お客さんに対して案内活動するということがあった。そのようなことが要因として挙げられる。

川崎委員

・コロナ明けで地域内での子どもたちも入った活動が再開されてきた。子どもたちが地域の中に入り地域の方と触れ合い、その体験をする中で何か郷土愛みたいなものが少しずつ芽生えて、地域や社会をよくしていきたいと考えるようになった、というような可能性もあると考えたがいかがか。

渡辺学校教育課長

・おっしゃるとおりである。

川崎委員

・8ページの上のNRTの各教科の偏差値について、小学生の②番に「国語の低下が止まらない」とある。十日町市は国語だけは高かったが、これが下がってきているというのは非常に困ったと思っているが、この要因は。

渡辺学校教育課長

・1つ考えられるのは、本を読まなくなったということである。各学校で、夏休みに図書館サミットがあったが、本に対して親しむような活動をこれからもやっていかなければならないと考えている。

川崎委員

・私もスマホの影響が大きいと思っている。小学生から中学生まで、文科省の言っている自らの人生の舵取りをすることができるということを大事に考えて、家庭学習を充実させたり、スマホの使い方を見直したりしていくと良いと思う。

(以上の質疑の後了承した)

⑤ 報告第4号 県指定文化財「神宮寺観音堂」茅葺屋根改修支援のためのふるさと納税
(ガバメントクラウドファンディング)の実施について

渡辺教育長

- ・事務局の説明を求めた。

村山博物館参事

- ・資料に基づき説明

(特に質疑なく了承した)

(3) 議決事項

①議案第1号 新しい十日町市立中学校をつくる検討会設置要綱の一部を改正する告示の
制定について

渡辺教育長

- ・議案第1号を上程し、事務局の説明を求めた。

玉村教育総務課長

- ・資料に基づき説明

(特に質疑なく、全員挙手で決定した)

②議案第2号 十日町市休日の吹奏楽活動推進事業補助金交付要綱制定について

渡辺教育長

- ・議案第2号を上程し、事務局の説明を求めた。

樋口生涯学習課長

- ・資料に基づき説明

廣田委員

- ・追加資料1ページに、予算の上限に達し次第終了と書いてある。補助金申請をする立場になると、この文言が重くのしかかってくる。予算的に余裕があるのなら、この文言はなくてもよいのではないか。

樋口生涯学習課長

- ・補助金なので、上限に達し次第終了という文言を入れた。吹奏楽に関しては、この補助金のほかに、20回だけ学校の練習としてやってよいということを、学校の顧問、校長と調整しているので、実は40回まで半年でできるようになっている。お金を使わずにやれる練習が20回あるので、この上限に達することはほぼないと想定している。

渡辺教育長

- ・対象になる人たちに不安感を与えないような表現にしてほしいというのが趣旨である。

川崎委員

- ・吹奏楽をはじめとする音楽を愛する市民をぜひ大切にしていってほしい。後継者がいないという話があり、なかなかそういう人が育ってこない。地域展開において吹奏楽部

の子たちの活動を市として全面的にバックアップし、後継者育成につなげ、音楽文化を大切に育む取組を今後とも生涯学習課にお願いをしたい。

樋口生涯学習課長

- ・いろいろ配慮しながら進めていきたい。

小堺委員

・私の子どもが中学2年生で吹奏楽部に入っている。毎週土曜日、月4回練習できていたが、今度2回になるという話を聞き、保護者会として毎週練習ができるよう、補助金をいただくなど、何かできることはやろうという話をしている。今3年生が抜けると、子どもたちが5人、5世帯しかいない状態となり、保護者会としても1世帯当たりの負担がとて多くなってくるのも心配だが、子どもたちの頑張りたいという気持ちは応援していきたいと思っている。頑張りたいと思っている子どもたちを支えていただけたらありがたい。今、吹奏楽部の練習に対してとても熱心な先生が顧問だが、その先生もいずれはどこかに異動する。次の顧問も、子どもたちに寄り添って活動していただけたらとてもありがたいと思う。

樋口生涯学習課長

・事業の進展に当たり、保護者の負担を求めながらやっているスポーツと同じような考え方で進めている。できるだけ保護者負担を抑えながら地域展開を進めていくよう考えなければならない。スポーツの子どもたちは、小学生の頃から少年団に入り、会費を払って活動していることが結構ある。今回、保護者会の中でも少し話があったが、文科系のクラブは少なく、習い事に関してお金を負担するという意識がないことが見受けられる。そのようなこともあり、できるだけ負担は抑えていきたいと考える。特に音楽系だと、楽器が非常に高価なので、今学校の先生ともいろいろ相談した中で、空いている楽器を今後使うことができないか検討している。

(以上の質疑のあと、全員挙手で決定した)

5 その他

(1) 10月の主な行事予定について

- ・資料に基づき説明

(2) 次回定例教育委員会の開催日時

- ・10月定例会 10月24日(金) 13時30分から開催することを確認した。
- ・11月定例会 11月20日(木) 13時30分から開催することを確認した。

以上で、12時20分に渡辺教育長が閉会を宣言した。

以上の会議録に誤りがないことを認め、ここに署名する。

会議録署名委員

会議録署名委員

会 議 書 記